

「総合的、俯瞰的な活動を確保する観点から判断した」。日本学術会議の新会員候補六人の任命を拒否する理由として菅義偉首相が挙げた、この言葉が波紋を広げている。抽象的で意味が分からないという世間の声をよそに、政府が国会でも記者会見でも連発し、具体的な説明を避けているのだ。そもそもいつごろから使われている言葉で、本来どんな意味なのか。

(石井紀代美、古川雅和)

意味不明です

「総合的、俯瞰的」って？ 学術会議問題

政府が「総合的、俯瞰的」と答弁する根拠にしているのは、政府の総合科学技術会議の下の調査会が二〇〇三年にまとめた報告書だ。当時日本学術会議の廃止論を唱える声が出ており、存続を認める条件として「総合的、俯瞰的な活動」が書き込まれた。

それは具体的にどんな内容を指していたのか。学術会議の歴史をたどると、もう少し前、橋本龍太郎内閣で省庁再編が議論された一九九七年ごろから、「総合的、俯瞰的な活動」という言葉が使われていた。

証言するのは、当時学術会議の会長を務め、国会でも参考人として意見を述べた吉川弘之・東京大名誉教授だ。九七年の会長就任後間もなく、学術会議の月刊誌への寄稿で「俯瞰的」という言葉を強調したという。

「哲学、天文学、経済学など、学問分野は約三十ある。学術会議が社会に対して役立つ助言をする役割があり、そのためには、空か

97年時の会長言及「鳥の目」で多分野見渡す



最良の人選んだ ■理由言えないから ■6人を侮辱

1997～2003年に会長を務めた吉川弘之・東京大名誉教授(デザイン学) 学者それぞれの学説は自由だが、みんなで話し合った時にどうなるか。自分の学説にしがみついたり、所属する学問分野の利益をかたくなに主張する人では、俯瞰的な視点を持っているとは言えない。それは、その人の論文を読めば判断できる。

学術会議が本当に苦労して「いま日本にいる研究者で、このメンバーなら俯瞰的な視点を出せる最良の人なんだ」と会員に選んだのが105人。一部の人だけが任命されずに削られてしまうと、科学者が出した「俯瞰的視点」が変わってしまう。政府は行革の時、存続の条件に俯瞰的を挙げたのに、俯瞰的でなくしている。「そのメンバーでは俯瞰的ではない」と言っているのか、説明がないのが混乱をもたらしている。

03～06年会長の黒川清・東京大名誉教授(医学) 政府が「総合的、俯瞰的」と繰り返しているのは、6人を任命しない理由が言えないからだ。

03～05年副会長の戒能通厚・早稲田大名誉教授(法社会学) 政府の主張を裏返せば「総合的、俯瞰的な視点がない」と言っているわけで、任命されなかった6人と学術会議を侮辱している。そもそも政府は、その視点の有無について判断できない。

ら見下ろす鳥のよつに、全領域をくまなく見渡す目が必要だという意味で用いた」

社会が学問の知識を実際に使うとき、一つの学問分野ではおさまらず、多分野にまたがった知を必要とする。例えば食料問題の解決に、冷害や干ばつに強い遺伝子組み換え作物を開発・利用しようとする場合、生物学や環境学、経済学など

の知を総動員し、さまざまな方面への影響を考える必要があるという意味だ。

また、研究者が各専門の利益代表になつてはいけないう意味もあった。例えば、特定の分野の研究者が何千億円もする実験装置を欲しがったとしても、全体を見渡し「今、費用を傾けるべき分野は何か」を判断する力が学術会議には必要なのだという。吉川氏は

「『総合的』という言葉も意味は同じ。俯瞰的な視点から、ばらばらな状態にしておくのではなく、総合する」ということと説明。今回、六人の新会員候補の任命が拒否されたことについて「科学者が出した『俯瞰的視点』が変わってしまった」と危ぶんでいる。

学術会議の元会長の黒川清・東京大名誉教授は、「総合的、俯瞰的」と繰り返すのは理由が言えないから」などと、元副会長の戒能通厚・早稲田大名誉教授は「学術会議への侮辱」などと語っている。

こちら特報部

「総合的、俯瞰的」という言葉が出たのは、五日の内閣記者会のインタビューだった。任命拒否の理由について「総合的、俯瞰的活動を確保する観点から判断した」と話したが、具体的なことは触れなかった。

拒否された六人はいずれも人文社会科学系だが「同じようなことは自然科学系でも起こりうる」と、東京大社会科学研究所の佐藤岩夫所

長は懸念を示す。政府の政策と異なり、反原発の立場で再生エネルギーの研究、宇宙や海洋の平和利用に取り組む学者が拒まれる恐れは否定できないからだ。

「今回の問題を人文社会科学

「総合的、俯瞰的」という言葉が出たのは、五日の内閣記者会のインタビューだった。任命拒否の理由について「総合的、俯瞰的活動を確保する観点から判断した」と話したが、具体的なことは触れなかった。

拒否された六人はいずれも人文社会科学系だが「同じようなことは自然科学系でも起こりうる」と、東京大社会科学研究所の佐藤岩夫所

菅政権が連発



①菅首相=5日
 ②加藤官房長官=6日、いずれも首相官邸
 ③三ツ林内閣府副大臣=8日、国会で

説明責任 どこへ

新しい学術研究の動向に柔軟に対応し、また、その社会的課題の解決に向けて提言したり、コミュニケーション活動を行うことが期待されている

総合的、俯瞰的な観点から活動することが

「総合的、俯瞰的」という表現が盛り込まれた総合科学技術会議の文書「日本学術会議の在り方について」

異論排除と高支持率背景「押し切るつもり」

授)。福島大の三浦浩喜学長も七日の定例記者会見で「具体的に説明してほしい」と訴えた。

政治評論家の有馬晴海さんは「総合的、俯瞰的という言葉は政治用語。普処します、と同じで、言わなくても分かるでしょうということ」と語る。だが、それは政治の世界の話だ。西川さんは六人を外すために「探し出して、とってつけた言葉」と指摘する。皮肉を込めて「空疎で美しい言葉」とし、「総合的に判断」と言われてしまえば、反論できない。今後この言葉が使われるのではないかと警戒する。

実際、政府は菅首相の発言後、「総合的、俯瞰的」をひたすら繰り返している。加藤勝信官房長官は六日午前の記者会見で三度にわたり使用。七日の衆院内閣委員会の閉会中審査では、内閣府の三ツ林裕巳副大臣と大塚幸寛官房長官が十数回も使って答弁したが、具体的な理由は語らずに済んだ。野党から「こんな壊れたレコードみたいな答弁を聞いていても仕方ない」と皮肉られたが、三ツ林副大臣は八日の参院内閣委員会中審査でも繰り返した。

政府の答弁が「壊れた録

初めてではない。今年一月の衆院予算委員会で安倍晋三前首相は、桜を見る会に地元後援者を招待した理由について「地域で功労のある人」と同じせりふを連発。閣僚の疑惑にも「それができる限りの国民への説明責任を果たしていくべきもの」と考える」と繰り返した。

政治評論家の森田美さんは菅政権の思惑を「頑として説明をしない背景には、逆らう人を寄せ付けない姿勢と高支持率がある。押し切れると思っている」と喝破したうえで、「こう語る。政治に一番大切なことは、国民に対して誠実であることだ。菅政権は訳のわからない言葉を使い、国民を、まかし続けた。はつきりと真実を言いなさい」

「政治に一番大切なことは、国民に対して誠実であることだ。菅政権は訳のわからない言葉を使い、国民を、まかし続けた。はつきりと真実を言いなさい」

広辞苑で「俯瞰」の意味は「高い所から見おろすこと。全体を上から見るること。鳥瞰(ちようかん)」。安倍政権の「地球儀を俯瞰する外交」のように、政治家好みの言葉らしい。でも鳥が空から全体像をつかめるのは、地上で草木や虫を見たことがあるからだ。専門性を尊重したい。(本)

2020.10.9